

SYLLABUS

2026 年度 春学期

教職課程

青森公立大学

経営経済学部

目 次

年次	授業科目名	単位	区分	担当	ページ
1	教職概論	②	必修	西村 吉弘	1
	教育心理学	②	必修	鈴木 郁生	4
	健康とスポーツ I	①	必修	今村 秀司	7
2	教育行政論	②	必修	西村 吉弘	9
	特別活動指導法	①	必修	渡部 靖之	12
	憲法概論	②	必修	小林 直樹	14
3	教育方法と情報通信技術	②	必修	鈴木 郁生	17
	進路指導の理論と方法	②	必修	内海 隆	20
	中等教科教育法（商業 I）	②	必修 （商業）	砂場 孝一郎	23
	商業実習	④	必修 （商業）	砂場 孝一郎	26
	中等教科教育法（公民 I）	②	必修 （公民）	長谷川 光治	30
4	教育実習事前事後指導	①	必修	内海 隆	33
				鈴木 郁生	
				西村 吉弘	
	教育実習	②	必修	鈴木 郁生	36
西村 吉弘					

2021年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1190～」 「1200～」 「1210～」で始まる学生）

（1）「教育方法と情報通信技術」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「教育方法論」の読替科目です。

〔科目名〕 教職概論		〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教職課程(必修科目)		
〔担当者〕 西村 吉弘		〔オフィス・アワー〕 時間:事前にメールでアポを取る。 場所:619研究室		〔授業の方法〕 講義及び演習	
〔科目の概要〕 基本的な教職の理念、歴史、制度、実態など多面的な視点から学び、教職に対する理解を構造的に捉えることや、自己の教師としての自覚を深めることを目的とする。 児童生徒として見てきた教師像に終始することなく、教師に課される職務を取り巻く構成や獲得すべき技術、更に刻々と変化する社会からの要請等、多面的に教職を捉えることによって、教師の全体像を掴むことが重要である。 本授業では、現代の日本の教師に求められる能力や職務の実態を学ぶことにより、その重要性や課題、問題点を総合的に理解することを試みる。					
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 基本的に、前半は講義形式の授業を行う。また、適宜アクティブラーニングの手法を活用し、授業を実施する。毎回の授業の後半に、講義内容に関連した検討課題を出す。よって、講義で学習したことを活かし、丁寧にアウトプットできるよう努めてもらいたい。これらの学習を通して、教師に要請される能力の育成や獲得に努め、専門知識の修得と共に、論理的思考力の獲得、他の受講者との学びによる協働関係の構築等の能力の獲得も目指す。 尚、本授業で教育学における基礎的事項を学習することで、更に深めた内容を網羅的に押さえることを教育原理で、政策や制度については教育制度論で、教育課程や学習指導要領については教育課程論で、それぞれ深化を図ることになる。					
〔科目の到達目標〕 本授業では、学校の教師という職業の実態を理解し、自身が目指す教師像と、そこへ至るために必要な力量形成について、具体的に考えることができることを目指す。そのため、以下の到達目標を設定する。 1 職務内容や使命、意義を理解する。 2 社会的な背景を踏まえ、日本の教師の特性と課題を理解する。 3 めざす教師像を自らアウトプットすることができ、また、そのための力量形成を追究することができる。					
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕					
学部				学科	
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 全体に還元した方が良いと思われる内容のものについては、適宜案内する。					
〔教科書〕 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)					
〔指定図書〕 岩田康之・高野和子編著『教職論』学文社(2017)					
〔参考書〕 毎回の授業で、講義内容に関連した参考文献リストを作成し紹介する。より学習を深めたい場合は、参考にしてもらいたい。					
〔前提科目〕					

<p>本授業は、教職の中で最も基本的な科目である。よって、本授業の内容を他の関連科目に活かせるように学習することを望む。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>基本的に、期末試験とレポートの合計で判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。試験結果やレポートの傾向については、web 上もしくは授業内で解説を行う。</p> <p>評価基準の割合：期末試験 70 点、レポート 20 点。平常点 10 点</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。また、各回で出題する検討課題に対して、自身の見解を構築できるように努めること。</p>	
<p>〔実務経歴〕 特記事項なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：教育学と教職論</p> <p>内 容：教育学研究における「教師」の存在とは何か検討する。教育を「学ぶ側」から「教える側」へと捉え直し、その転換を考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 2 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：教育実践を支える教育法規</p> <p>内 容：日本は法治国家であり、様々な法的裏付けによって教育の仕組みも成立している。その根拠法の重要性に触れる。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 3 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：教員養成・採用・研修の一体化</p> <p>内 容：今日要請されている「知識基盤社会」とは何か、理解を深める。更に、キーコンピテンシー (主要能力) の 3 つの広域カテゴリーを学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 4 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：チームとしての学校</p> <p>内 容：「チーム」が求められる背景要因を、深く学ぶ。また、教職員以外の専門家 (スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等) や、学校支援ボランティアの役割を考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 5 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：児童虐待問題と学校・教職員の役割</p> <p>内 容：児童福祉法の理念を踏まえた、児童虐待を捉える視点を養う。そして、虐待問題に対して学校が持つ利点と学校・教職員の役割について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 6 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：学校と学童保育・放課後子ども教室との連携</p> <p>内 容：学童保育の法制化について、仕組みを学ぶ。また、放課後施策への展開と課題について考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第 7 回	<p>テーマ (何を学ぶか)：いじめ問題への対応</p> <p>内 容：いじめの定義の変遷を、概観する。いじめの未然防止 (居場所づくり、絆づくり、早期発見) の重要性を考え、教職員の対応の在り方を検討する。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>

第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 安全・安心の学校づくり 内 容 : 学校事故に関するデータから、教師の法的責任の構造を学ぶ。また、危機管理の重要性について考える。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教職における合意形成の在り方①ーダイヤモンドランキングによる演習 内 容 : 教師間の同僚性や協働関係の重要性を学ぶため、ダイヤモンドランキングの手法を用い、アクティブラーニングを重視したワークを行う。</p> <p>教科書・指定図書 なし。ワークシートを配布する。</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 日本の教師の役割と特性 内 容 : 教師の特性や、専門性の変容について概観する。特に、日本に特有の「無境界性、無限定性」の功罪について深く検討する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教師の職能成長 内 容 : 教師が、専門職として成長していくための仕組みを学ぶ。また、その一環としての研修の具体的取り組みを、教職員センターの事例から検討する。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教職への学び - 教員養成の学び全体から考える 内 容 : 教職課程の構造を、「理論」と「実践」の2つの軸から概観する。また、「省察」の概念を把握し、教員養成に省察が位置づけられた視点を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教師の力量形成ー学び続ける教師 内 容 : 省察による実践知の体系化の重要性について、「教師自身による学び」の点から検討する。また、非正規雇用者の増加による「臨採」、「非常勤講師」の雇用やその問題点について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教職における合意形成の在り方②ーダイヤモンドランキングによる演習 内 容 : 第9回の①につづき、2回目の実施となる。ここでは、更に合意形成の在り方を意識し、多様な見解が潜在化していること、それを集約することの重要性について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 なし。ワークシートを配布する。</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : まとめ - 振り返り (リフレクション) を踏まえて 内 容 : これまでの学習内容について、レジュメ、配布資料、教科書等を用い、授業全般を振り返る。そして、半期の学習を通して、「教育」、「教職」に対するイメージや考え方が、どの程度変化したのか、自己理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 これまでに配布したレジュメや資料を、全て持参する。</p>
試験	<p>期末テスト : 筆記試験の実施。</p>

〔科目名〕 教育心理学				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教職科目(必修)	
〔担当者〕 鈴木郁生 SUZUKI Ikuo			〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始時に明示する 場所: 614 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本科目では、教育実践の基礎となる教育心理学の理論や知識について幅広く学んでいく。具体的には、発達、学習に関連する教育心理学の基礎領域について学ぶ。発達領域では、乳幼児から青年期までの心身の発達について、学習領域では人間の記憶や認知などの学習過程の基礎及び教授法について学ぶ。この授業を通して教育心理学の様々な内容に触れ、その知識を教育実践の場で効果的に役立てられるようになることを期待する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は教育職員免許法に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」であり、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」の事項に関わる科目である。教員免許取得のための必修科目として定められている。 教育実践の場に立つためには、ただ教える教科の内容や技術だけを学ぶだけでは不十分である。そこで本科目において、その実践の支えとなるような理論、根拠となる知識について学ぶ。例えば、幼児・児童または生徒と向き合うためには、その年代の子どもの心身の発達についての知識が役に立つだろう。あるいは記憶や学習過程への理解は、子ども達の学習を効果的に支援するために必要となる。 このように、本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい。							
〔科目の到達目標〕 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業評価では、概ね肯定的な評価をしてもらっている。							
〔教科書〕 使用しない。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 授業時に適宜紹介する。							
〔前提科目〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験を行う。また授業中に適宜課題を課す。これらを総合して評価する(期末試験は、評価の概ね 80%程度							

である)。	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>教育心理学について、ただ知識として伝えるのではなく、そのような知見が得られた過程についても話していくつもりである。受講者は、用語や理論をただ暗記するのではなく、その根拠や研究過程についても理解するよう心掛けて欲しい。また受講者の理解が進むよう、具体的な例を挙げながら授業を進める予定である。受講者も好奇心を持ち、自らの経験等に照らしながら学習を行ってほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当しない。</p>	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション・教育心理学と研究法</p> <p>内 容： 教育心理学の歴史や領域、研究法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 発達段階と発達課題</p> <p>内 容： 発達段階や発達課題など、生涯発達に関わる基礎的理論・概念について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 感覚知覚および運動に関する発達過程</p> <p>内 容： 感覚知覚および運動に関する発達過程について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 言語および社会性に関する発達過程</p> <p>内 容： 言語および社会性に関する発達過程について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 知的側面にかかわる発達</p> <p>内 容： 認知、思考に関するピアジェの発達理論の解説。感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期それぞれの特徴について概説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 道徳性の発達</p> <p>内 容： 道徳性に関する発達心理学の知見について紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 青年期の発達的特徴と同一性</p> <p>内 容： 青年期を取り巻く状況や青年期に生じる発達的特徴を通じ、青年期観を問題とする。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 学習理論(古典的条件づけ)</p> <p>内 容： 古典的条件付けを中心に学習理論を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学習理論(オペラント条件付け)</p> <p>内 容: オペラント条件付けをはじめとする学習理論について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 動機づけ</p> <p>内 容: 内発的動機づけと外発的動機づけについて学び、その関係についても解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 認知機能と学習</p> <p>内 容: 記憶・思考の基本的なメカニズム、および学習に関わる特性について紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学習教授法</p> <p>内 容: 集中学習・分散学習や受容学習・発見学習など、学習や教授の方法および評価に関する考え方について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 集団とその心理的特徴</p> <p>内 容: 集団規範やソシオメトリーなど学習集団に関する基礎的知識を理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会情緒的側面と学習</p> <p>内 容: 社会情緒的側面と学習について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育心理学の今日的課題</p> <p>内 容: 教育心理学における今日的な課題について論じる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

〔科目名〕 健康とスポーツ I				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 アカデミック・ コモンベーシックス	
〔担当者〕 今村 秀司			〔オフィス・アワー〕 時間:授業終了後 場所:体育館			〔授業の方法〕 実 技	
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 スポーツは、人間の身体的・精神的欲求に応え、健康と体力を保持増進し、私たちの人生を豊かで充実したものにしていく世界文化の一つです。スポーツをすることは、単に趣味としての意味以外にも「健康と体力づくり」、「人づくり」、「仲間づくり」のための手段として価値があり、明るく活力ある社会形成に大きく寄与する。ここに開講されるスポーツ実技は、スポーツの文化的側面を深く理解し、運動の合理的な実践を通して、生涯にわたり健康な生活を営むことが出来るようになることを目指している。							
〔科目の到達目標〕 受講生が主体的にスポーツ種目を選択し、ゲーム中心に基本技術・応用技術を学び選択種目について、個々の技術向上、体力増進を図ることを中間目標とする。 さらには、正式ルールをベースに、簡易ルールの採用も可とした質の高い攻防のゲームを行いながら、仲間づくりや集団生活における自他の再発見、スポーツ活動の楽しさの体感をするを最終目標とする。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生からの要望があればそのつど可能な限り対応していきたい。これまでも「授業評価」に基づき工夫・改善に務めてきたが今後も続けていきたい。							
〔教科書〕 なし							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 大学生の健康・スポーツ科学 (大学生のスポーツ科学研究会編 道和書院)							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 選択したスポーツ種目の出席参加状況、グループの一員としての役割活動、運動にあった服装などの受講姿勢・態度を総合的に判断して評価する。また、スポーツ・体育実技の評価については、原則次の基準によって行う。							

①運動の特性の理解度 ②意欲・公正さ ③技術の習得度

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・運動とは本来人間にとって大きな楽しみ一つであるが、基本的なルールや技術を身につけなければ楽しむレベルに到達することはできない。高校時代に厳しい部活動を経験してきた学生も多いと思われるが、別の視点に立って運動に取り組ませたいと考える。学生諸君には積極的に体を動かし、良い汗をかきスポーツを楽しむことを多いに期待したい。

・運動に適した服装とシューズで受講すること。(ワイシャツ・ジーンズは認めない。・内靴・外靴の区別をする。体育館フロア内では内靴を厳守。)

〔実務経歴〕 該当なし

授業スケジュール

<p>全体像</p>	<p>内 容:</p> <p>全体 15 回を大きく3つのステージに分けそれぞれのステージで実施内容を設定していく。選択種目は、バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球の4種目。状況に応じて3×3バスケットボール・ソフトバレーボール・インディアカ等なじみの薄いスポーツも取り入れる。</p> <p>また、準備運動・整理運動の重要性を理解させ、けが防止の意識を高める。なお、ゲーム中心に実施するので施設の関係や受講生が少なくチーム編成できない場合は、実施種目を制限することがある。</p>
<p>第1ステージ 1～5回</p>	<p>内 容:</p> <p>スポーツ種目の選択。グルーピング(リーダーの選出。リーダーの選出は、この授業のポイントとなる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間を知る。(選択種目の活動歴・リーダー性・責任感と協力性などリーダーを選ぶポイント等) ・選択種目になじむ。 ・授業のルール・流れを知る。
<p>第2ステージ 6～10回</p>	<p>内 容:</p> <p>選んだ種目のレベルアップを図りながら、ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム練習を入れながらゲームのレベル・質を高める。
<p>第3ステージ 11～15回</p>	<p>内 容:</p> <p>ディフェンス・オフェンス時のポジショニングなど、戦術について学びながら質の高い攻防のゲームを目指す。</p>
<p>試 験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技・筆記による試験は行わない。 <p>出席状況、受講姿勢の観察からの評価、運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する観点からの評価とする。</p>

[科目名] 教育行政論				[単位数] 2単位	[科目区分] 教職課程(必修科目)		
[担当者] 西村 吉弘		[オフィス・アワー] 時間:事前に、アポを取ることに。 場所:619 研究室			[授業の方法] 講義及び演習		
[科目の概要] 教職コアカリキュラムに準拠し、基本的な教育行政の仕組みを理解し、今日の学校教育が規定されている要因について学ぶ。そして、制度的な側面における今日的な課題を理解する。 また、教育行政・制度の原理と諸概念、教育法規や教育財政制度、学校経営・管理、カリキュラム行政、等について広く概観し、理解を深め、現代の教育問題やこれからの教育のあり方についても考えていく。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 日本は、法治国家であり、様々な教育政策や教育行政を推進するに際し、該当する根拠法を学ぶ必要がある。また、それらが基盤となり、教育行政の枠組みが整備されている。 このような、広範なスケールで教育の枠組みを捉えることは、学校現場で教師として関わる上でも、視野の広がりや公教育への意識を高めるものである。							
[科目の到達目標] 近年の教育政策の動向を理解し、教育実践のための基礎的な力を獲得する。そして、学校と地域の連携や学校安全への対応も含む、幅広い見識を身につける。また、知識の修得と共に、それを活用し口頭発表や論述においてアウトプットできる力を獲得する。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○	○	○				
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 特筆すべきものがあれば、適宜紹介する。							
[教科書] 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版 - 子ども・若者の未来を拓く』八千代出版(2024)							
[指定図書] 必要に応じて、授業中に案内する。							
[参考書] 必要に応じて、授業中に案内する。							
[前提科目] 関連する、各教職科目を履修しておくこと。							
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 基本的に、期末試験とレポートで判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。提出されたレポートの結果や傾向については、授業内で解説を行う。 評価基準の割合:期末試験 80 点、レポート 15 点。平常点5点。							
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] 予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにする。							

〔実務経歴〕	
該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 憲法と教育基本法</p> <p>内 容: 日本国憲法の他、教育基本法の制定過程や特徴を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文部科学省と教育政策形成</p> <p>内 容: 主に、戦後の社会変化と教育政策形成について学ぶ。また、文部科学省の仕組みについても学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育委員会制度</p> <p>内 容: 教育委員会制度の理念と仕組みを学び、改正地教行法以降の制度と課題について見識を深める。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学校安全・学校保健安全法の理念や事例を通じた検討</p> <p>内 容: 学校保健安全法の基本的な枠組みを学習し、学校現場における安全管理の重要性について見識を深める。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育課程と学習指導要領</p> <p>内 容: 教育課程行政と学習指導要領の関係性について学び、その変遷と特色について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の公教育制度</p> <p>内 容: 教育を受ける権利と、公教育制度の関係について学ぶ。また、特別支援教育制度や不登校問題についても扱い、理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 学校組織と学校経営</p> <p>内 容: 学校の組織と経営について学び、自律的学校経営の推進による成果と課題について理解を深める。また、開かれた学校づくりと、保護者との関係性の変化についても検討する。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育行政における合意形成の在り方について</p> <p>内 容: 多様な価値観を持つ集団において、合意形成を育むことは容易ではない。これらの意見を集約し合意形成に向けた取り組みを、演習を通して学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):教職員制度と教員の仕事①</p> <p>内 容:教員免許の取得と、教員養成・研修について、一体的に学ぶ。また、教員評価制度について学習し、教職員の人事管理や労働についても学習する。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):教職員制度と教員の仕事②</p> <p>内 容:前回までに学習した教員人事管理について深く掘り下げ、教員評価制度の具体的な内容に関し、調べ学習を通して理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校を支える教職員と施設、社会教育の理念</p> <p>内 容:教諭以外の、学校事務職員、養護教諭、司書教諭、学校司書を取り上げ、それぞれの学校教育における役割を概観する。そのうえで、チームとしての学校の理念と重要性を検討する。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):生涯学習政策と社会教育</p> <p>内 容:生涯学習政策の変遷を概観し、アンドラゴジーの重要性について学習する。そして、これらを通して、現在進められている学校と地域の連携・協働活動の取り組みや実践の理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):子どもの権利条約と学校の課題①</p> <p>内 容:子どもの権利条約に関する、成立・締約状況・理念について学ぶ。また、子どもの権利侵害としてのいじめ問題についても掘り下げて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):子どもの権利条約と学校の課題②</p> <p>内 容:子どもの権利条約の実際の条文を読み、これらの理念の解釈や学校現場への応用可能性等について、演習を通して学習する。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ リフレクションを踏まえて</p> <p>内 容:これまでの学習内容について、授業全般をふり返る。そして、半期の学習を通して、教育政策や教育行政の重要性と今日的課題について考えをまとめる。</p> <p>教科書・指定図書 横井敏郎 編著『教育行政学 第5版』八千代出版(2024)</p>
試験	<p>期末テスト:筆記試験の実施。</p>

〔科目名〕 特別活動指導法				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 教職課程(必修科目)		
〔担当者〕 渡部 靖之		〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:				〔授業の方法〕 講義・演習		
〔科目の概要〕 前半では、特別活動の内容とねらい、教育課程における位置づけと他教科との関連性について講義する。 後半は、各場面における具体的な指導項目について、実践上の課題と評価方法について演習形式で学ぶ。								
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 学習指導要領では、教科外に位置づけられる特別活動は、我が国の学校教育において、各教科の学習と同等に重要な活動である。特に、社会人として求められる「生きる力」を、特別活動によって直接育むことができるという意味では、各教科以上の意味があるとも言える。 1 年次に履修済みの「教職概論」や「教育心理学」、2 年次の「教育行政論」、また今後履修する「教育方法論」、「進路指導の理論と方法」等、他の教職科目との関連性も踏まえつつ、特別活動の持つ意義について学ぶことは、これからの「VUCA」の時代の教員として不可欠である。								
〔科目の到達目標〕 中学校及び高等学校学習指導要領が示す特別活動の目標を達成するために必要な実践的指導力を身につける。 具体的には、次の3点を掲げる。 1 特別活動の目的と歴史の理解を通じて特別活動の意義を知る。 2 特別活動の内容(学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事)について、具体例や実習を通して、実践的指導法と評価手法を身につける。 3 集団活動及び自己肯定感の醸成における特別活動の重要性について理解する。								
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕								
学 部				学 科				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		
	○	○	○					
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の授業評価を踏まえて、改善すべきところは改善する。								
〔教科書〕 なし								
〔指定図書〕 なし								
〔参考書〕 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」 その他必要に応じて提示する。								
〔前提科目〕 なし								
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 1 毎時間、「ふりかえりレポート」を含む講義テキストを提出。 2 最終授業で全体の理解度を図る「ふりかえりテスト」を行う。								
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 オリジナルの講義テキスト(簡易なレポート含む)を利用し、効率よく学習が進められるようにする。講義テキストにはコメントを記して返却することで、講義内容のふりかえりを促す。 講義は講義テキストに沿って進め、パワーポイントで適宜資料等を提示する。講義をしっかりと聞き、ふりかえり								

レポートをきちんと記入、提出することが基本である。なお、ふりかえりレポートは、講義で学んだ内容を自分自身や地域に引き付けて捉えられているかどうかに着目して評価する。

7回の授業中、3回の欠席で単位認定資格を失う。(遅刻・中抜け・早退は合計3回につき1回の欠席とみなす)

〔実務経歴〕	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育・学習とは何か</p> <p>内 容: 特別活動について学ぶ前提として「教育・学習」、「学校」の意義と役割について考える。</p> <p>① 「教育」とは何か ② 「教育」と「学習」のちがい ③ 社会における学校の意味 ④ 生涯における学校の意味</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の意義と歴史</p> <p>内 容: 特別活動の意義と歴史について講義し、演習により実践力を身に付ける。</p> <p>① 特別活動とは ② 特別活動の意義 ③ 特別活動の歴史</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の指導方法①</p> <p>内 容: 特別活動の具体的な指導方法について講義し、演習により実践力を身に付ける。</p> <p>① 学級活動／ホームルーム活動 ② 生徒会活動 ③ クラブ活動</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の指導方法②</p> <p>内 容: 特別活動の具体的な指導方法及び評価について講義し、演習により実践力を身に付ける。</p> <p>④ 学校行事 ⑤ 特別活動の評価</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動と他の諸活動との関係</p> <p>内 容: 特別活動と他の学校教育活動との関連について講義し、演習により実践力を身に付ける。</p> <p>① 各教科との関係 ② 総合的な学習／探究の時間との関係 ③ 道徳教育との関係 ④ 特別活動を含むクロスカリキュラム</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動と進路指導・キャリア教育</p> <p>内 容: 特別活動とキャリア教育との関連について講義し、演習により実践力を身に付ける。</p> <p>① 進路指導とキャリア教育 ② 特別活動におけるキャリア教育 ③ 特別活動における「キャリア教育的」な断片</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動におけるワークショップの企画</p> <p>内 容: 特別活動における参加体験型学習について講義し、演習を通して実践力を身に付ける。</p> <p>① 特別活動で学校が変わる! ② ワークショップの特性と効果 ③ 特別活動(学級活動／HR活動)におけるワークショップの企画</p> <p>※全体のふりかえりテストを行う。</p>
試験	

〔科目名〕 憲法概論		〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目			
〔担当者〕 小林直樹		〔オフィス・アワー〕 時間：適宜（※要事前連絡） 場所：612研究室		〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 <p>「憲法」は、政治家や政治に関心のある人の主義・主張と結びついているというイメージを抱きがちですが、実際には私たちにとって非常に身近な法といえます。つまり、私たち(将来世代を含む)の生き方を左右し、現在および将来の人々の基本的人権、例えば、プライバシー権、性差別等を禁ずる平等権、思想・良心の自由や表現の自由等の自由権、生存権や教育を受ける権利等の社会権、主権者としての参政権の保障にかかわる法と言えます。それゆえ、私たちは、権力の担い手に制限を課すことで権力の暴走を防ぎ、もって人権や自由を充実させるために、教養としての憲法の知識、すなわち憲法の「考え方」を身につける必要があります。</p> <p>そこで、本講義は、憲法が定める”基本的人権は何か? ”、それらを支える”基本原理とは何か?”を考え、併せて、人権を保障するための手段としての統治機構、すなわち国会・内閣・裁判所といった各機関の概念のほか相互の関係(抑制と均衡)、地方自治について学びます。また、新聞記事等で取り上げられた具体的事例をとりあげ、憲法が受講生にとって身近な法であると感じられるよう、展開しようと考えています。</p> <p>本講義では、中学・高校で学んだ知識を基盤としつつ、日本国憲法およびそれに関連する法（法律や条例、国際法）について、時事問題を通じて憲法の「考え方」を身につけることを目的とします。</p> <p>なお、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もあります。</p>						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>本講義の目標は、教養としての憲法の「考え方」を修得することです。しかし、憲法は、時代や国・地域によって異なり、その「考え方」も異なります。また、社会現象（自然環境の維持や動物の福祉、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方、個人情報保護、AIの進化、企業と人権問題、難民問題等）から影響を受けてダイナミックに変化もします。受講生各自が現代社会を意識し、興味関心のある分野（自然科学・人文科学）を学ぶことで、憲法の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、憲法の「考え方」を深化させ、複眼的見方を得て、憲法の「考え方」を実践できるようになると考えます。</p>						
〔科目の到達目標〕 <p>4点（①“憲法の基本的な用語を理解し、説明できるようになる”、②“憲法の「考え方」（学説や裁判例）を理解する”、③“憲法の「考え方」を理解したうえで、その内容を説明できるようになる”、④“①～③をもとに、社会における憲法にかかわる問題について自分の考えを説明できるようになる”）を重視し、評価をします。</p> <p>A 80点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している</p> <p>B 70点以上 80点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している</p> <p>C 60点以上 70点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している</p> <p>D 50点以上 60点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している</p> <p>F 50点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない</p>						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
		○	○		○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>視聴覚教材を用いて学ぶ内容の理解促進に努め、特に、学ぶ内容が空理空論ではなく、社会と密接に結びつき、自分自身の問題であることを理解できるよう講義を組み立ててきました。授業評価は、その点について肯定的評価であったと理解しています。</p> <p>1回の講義が最後まで終わらなかった点への指摘についてですが、内容の過多も要因ですが、大きくは1コマ</p>						

<p>限りません。物足りない、さらに深く掘り下げて知りたいと感じている場合は、遠慮なくオフィス・アワーにおいて私に質問をしてください。研究室でまっています。</p> <p>なお、「テストの情報がほしい」「テスト対策が少ししにくい」という意見を時折みかけます。第1回の講義時（また、試験直前の14回・15回）に試験の説明をしています(Google クラウドに記すことで対応します)。しかし、上記「科目概要」において触れましたが、試験結果を追い求めるのではなく、憲法の「考え方」という教養を身に着けることが本講義の目的です(点数ばかり求めるのは高校生まででしょう)。試験対策や点数という目先の利益にとらわれず、将来にむけて役立てられるよう教養として継続的に憲法の「考え方」を学び続けることを求めます。</p>	
<p>【教科書】 小林直三ほか『判例で学ぶ憲法』（法律文化社、2022）</p>	
<p>【指定図書】 芦部信喜『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023）</p>	
<p>【参考書】 高橋和之『立憲主義と日本国憲法〔第6版〕』（有斐閣、2024）、渡辺康行ほか『憲法I〔第2版〕基本権』（日本評論社、2023）、同『憲法II 総論・統治』（日本評論社、2020）、長谷部恭男『憲法〔第8版〕』（新世社、2022）、松井茂記『日本国憲法〔第4版〕』（有斐閣、2022）、加藤一彦ほか『フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤』（北樹出版、2020）、長谷部恭男ほか『憲法判例百選I〔第7版〕』（有斐閣、2019）、同『憲法判例百選II〔第7版〕』（有斐閣、2019）、弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016）など。</p>	
<p>【前提科目】 特になし。</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 単に講義に出席しただけでは、学びにはなりません。1回の講義につき予習・復習を行い(凡そ4時間程度)、全15回の講義で十分に予習・復習が実行されていることも評価していきたいと考えます。また、講義中に、前回学んだ内容についての確認の質問や、予習が実行されているか確認の質問を行い、受け身の受講ではなく、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価したいと考えます(何らかの課題などペーパーの提出もあり得る)。原則、定期試験100%により評価を行いますが、3分の2以上の出席が試験受験の要件となります。</p>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 本講義で学ぶ内容は、社会の出来事、つまり社会現象と無関係ではない憲法に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、実社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、教養としての憲法を学ぶことにつながるからです。 また、講義中に質問をします(解答の正解・不正解は不問)。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいとも思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して、単に板書するという受け身になるのではなく、教員や他の受講生と積極的にコミュニケーションをし、講義が成長発達となることを意識してほしいと願っています。</p>	
<p>【実務経歴】 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション——憲法判例を学ぶ—— 内 容: 本講義の進め方や方針について説明したのち、入門的な説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人権総論 内 容: 日本国憲法の基本原則の一つである基本的人権の保障を具体的事例を通じて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国民主権と象徴天皇制</p> <p>内 容: 日本国憲法の基本原則の一つである国民主権・象徴天皇制を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「新しい人権」 その1</p> <p>内 容: 憲法13条が保障する「幸福追求権」とプライバシー権(個人情報の保護)を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「新しい人権」 その2</p> <p>内 容: プライバシー権のうち、自己決定権などを学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 平等権(または平等原則)</p> <p>内 容: 憲法14条が保障する「平等」について考えます。その際、憲法14条1項が列挙する禁止事項のほか、近時問題となる差別問題(LGBTなど)について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 信教の自由と政教分離原則</p> <p>内 容: 憲法20条が保障する「信教の自由」ほか、政教分離について考えます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 表現の自由</p> <p>内 容: 憲法21条が保障する「表現の自由」について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経済的自由——職業選択の自由——</p> <p>内 容: 事業を行うさいに「資格」や「許可」が必要となるのかを、近時問題となる営業にかかわる具体的な事例を通じて学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生存権・労働者の権利</p> <p>内 容: 「生存権」および「労働基本権」について、近時問題となっている格差社会や、生活保護申請に対する水際対策等、人の生存にかかわる具体的な事例を学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人身の自由と刑事手続</p> <p>内 容: 人身の自由と刑事手続(行政手続を含む)について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国会</p> <p>内 容: 「権力分立」について理解を深め、国民主権や国民代表制、選挙制度について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 内閣</p> <p>内 容: 議院内閣制と大統領制を比較しつつ、日本における議院内閣制について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 司法</p> <p>内 容: 司法の仕組みや概念、裁判所の役割などについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地方自治</p> <p>内 容: 憲法第8章(92条から95条)に定める「地方自治」について学びます。</p> <p>教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。</p>
試験	<p>筆記試験を実施します。講義中に扱った範囲から出題します。</p>

〔科目名〕 教育方法と情報通信技術				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教職課程(必修)	
〔担当者〕 鈴木郁生 SUZUKI Ikuo			〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始時に明示する 場所: 614 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 優れた教員となるには、教育の方法や理論、そして情報通信技術という現代的な課題について理解し、それを実践的に活用する能力が必要である。そこで本授業では歴史的経緯や人間の認知過程を踏まえつつ、理論に裏打ちされた教育方法・技術について学習する。また、情報化の進んだ社会を見据え、教員として必要とされる情報通信技術とその活用および情報通信技術育成のための指導法を理論的かつ実践的に学ぶ。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は、教育職員免許法に定められた「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、特に「教育の方法及び技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項に関わる科目である。そのため、教職課程の必修科目として定められている。 教壇に立つには、ただ教える教科の知識を持つだけでは充分だとは言えない。教育方法について深い理解があつてこそ、授業設計にも幅が出来、自らの教授法を客観的に評価出来る。本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい。							
〔科目の到達目標〕 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 概ね良好な評価を頂いている。今後もさらなる改善に努めたい。							
〔教科書〕 なし。							
〔指定図書〕 なし。							
〔参考書〕 授業時に適宜紹介する。							
〔前提科目〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業への参加の程度、授業時に課される課題をもとに総合的に評価する。							

<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>授業時はグループワーク等が幾度かある。欠席するとグループ活動が難しくなるため、授業には必ず出席してほしい。また欠席された場合でも、必ず課題の有無を確認してほしい。</p>	
<p>【実務経歴】</p> <p>該当しない。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション・教育方法の歴史と基礎理論</p> <p>内 容： 初回授業であるので、授業展開等について説明する。そして教育方法の歴史や基礎理論について解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 教育における基礎的要件</p> <p>内 容： 教員や教室などの要件について、エビデンスを踏まえつつ理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 学びに関わる認知過程</p> <p>内 容： 学習・教授法に背景にある認知過程について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 子どもの理解と評価の理論</p> <p>内 容： 学力、知能などに関する理解と、教育評価に関する学習を通して、人を測定することについて深く理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 学習教授法</p> <p>内 容： 様々な学習教授法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 学習教授法および協同学習の理論と方法</p> <p>内 容： 認知過程を踏まえ、学習教授法と協同学習に関わる理論と方法を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 授業展開の理論と方法</p> <p>内 容： 授業環境を含め、授業デザインについて学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 情報通信技術の基礎と活用</p> <p>内 容： 教育場面を中心として情報通信技術の基礎的な知識を学び、その発展について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：情報通信技術を活用した教材と学習教授法</p> <p>内 容：情報通信技術を活用した教材と学習教授法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：情報通信技術を活用した学習教授法と特別支援</p> <p>内 容：情報通信技術を活用した教材と学習教授法について学びつつ、特別支援教育における情報通信技術について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)：オンライン教育の方法と授業デザイン</p> <p>内 容：オンライン教育の方法を中心に、授業環境と授業デザインについて学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)：情報セキュリティと教育データの活用</p> <p>内 容：情報セキュリティと教育データの活用について理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)：情報通信技術に基づく校務と学校環境・連携</p> <p>内 容：授業以外の校務等において有用な情報通信技術について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)：情報活用能力の育成</p> <p>内 容：情報活用能力の育成について考察する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)：情報通信技術を用いた授業実践の方法</p> <p>内 容：情報通信技術を用いた授業体験を通して、教育方法の実践的理解を求める。</p> <p>教科書・指定図書</p>

〔科目名〕 進路指導の理論と方法				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教職課程(必修科目)	
〔担当者〕 内海 隆 (Uchiumi Takashi)		〔オフィス・アワー〕 時間:授業の初回に提示する。 場所:				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 高等学校における進路指導は、一人ひとりの生徒が自らの適性や興味を知ることによって、将来の進路を主体的に計画し選択できるよう導くことにある。 1999(平成 11)年の中央教育審議会答申でも、「キャリア教育」の観点から進路指導の重要性が取りあげられた。(ここでの「キャリア教育」とは、進路指導<キャリアガイダンス>と同じ内容ととらえてよい。) 本講義ではキャリア教育と進路指導の関係を踏まえながら、高校生レベルの進学指導や就職指導に終始することなく、生徒個人々の生き方、在り方、そして働き方に関わる進路指導全般について講義する。 なお、授業の展開にあたっては、講義形式だけでなく履修学生の教職をはじめとする自己の職業観の確立を念頭におきながら、自己分析等のエクササイズも取り入れて進める。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 「職業に貴賤はないが、生き方には貴賤がある」ということを、履修学生のキャリア形成と「生きる力」に培われたライフデザイン力につながる。なお、「商業」免許状を取得する経営学科の学生は、秋学期に「職業指導」を必修科目として履修することになるので、その点を考慮して授業を展開する。							
〔科目の到達目標〕 進路指導の歴史や理論についての基本的な理解と現代(いま)に生きる子ども達の生活・意識の実態を理解したうえで、学習分野や職業に関する情報提供、進路指導における ①人間関係形成力、②情報活用力、③将来設計力、④意思決定力の育成、⑤自己分析の支援などの指導上のスキルの習得を目指す。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業スタイルと内容に関し、適宜、変更を加えて進めることがあるが、進路選択に関する「キャリア・マトリックス簡易カード(OHBY カード)」分析などの活用による自己分析、職業適性検査も実施する。							
〔教科書〕 使用しない。(教員が作成した講義概要、資料等のプリント冊子を配布する。)							
〔指定図書〕 田辰雄ほか『進路指導・キャリア教育の理論と実践』、日本文化科学社 チーム SMASH 著、佐藤革馬編『高校教師のための進路指導就職支援』、学事出版							
〔参考書〕 講義の際に、適宜、紹介する。							
〔前提科目〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 進路指導の実際について、模擬指導に関するレポートと講義中に提示した小論文に関するコメント文を提出してもらい、それぞれ 50 点満点の配分で総合的に評価する。							

<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <p>高校生の進路指導・職業指導・キャリア教育が本科目の視点であるが、学生諸君の自らのふり返しと将来の働き方・生き方と重ね合わせながら学修をすすめてほしい。</p>	
<p>【実務経歴】</p> <p>該当なし。</p>	
<p>授 業 スケ ジ ュ ー ル</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導の意義と課題(ガイダンス)</p> <p>内 容:進路指導とはなにか、高校生の進路の現状</p> <p style="text-align: center;">*ホランドの理論に基づく事前自己チェック</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導とキャリア教育</p> <p>内 容:いま、キャリア教育が求められる背景</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導の歴史と諸外国の実情</p> <p>内 容:ガイダンス理論、アメリカ・ドイツ・日本の進路指導の紹介</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか):職業観、勤労観の形成と変容</p> <p>内 容:従来型進路指導とキャリア教育の違い</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代における就業構造の変化</p> <p>内 容:若者の就業実態(MBAとヤッピー、ニート、フリーターなど)</p> <p style="text-align: center;">終身雇用制と任期制、年俸制、正規雇用と非正規雇用、男女共同参画基本法と関連法規、女性の就労形態(M型)ほか</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか):職業上のシンギュラリティの周辺</p> <p>内 容:シンギュラリティとは?</p> <p style="text-align: center;">グラットン教授の「働き方のリデザイン」(『ライフシフト～100年時代の人生戦略～』より)</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校における進路指導の実際とキャリア教育</p> <p>内 容:生き方教育、キャリア教育、進路指導</p> <p style="text-align: center;">キャリア発達課題と4つの能力課題、「人生 100 年時代の社会人基礎力」について</p> <p style="text-align: center;">「計画された偶発性理論」と「キャリア・トランジション」</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第 8 回	<p>テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育</p> <p>内 容:高等学校学習指導要領の内容とキャリア教育、高校生の職業と進路</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):ホームルーム経営と進路指導</p> <p>内 容:生き方指導とホームルーム経営</p> <p>「働く」ということ、社会的自己実現について、「キャリア・アンカー」論</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の推進体制と進路指導計画</p> <p>内 容:職業、進路指導の計画と評価の活用</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導における家庭と学校の協同</p> <p>内 容:家庭との連携</p> <p>学校の校務分掌と協同体制</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):定時制、通信制高等学校及び特別支援学校での職業・進路指導</p> <p>内 容:定時制、通信制高等学校の進路指導</p> <p>特別支援学校での職業・進路指導</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):進路指導に関する模擬指導</p> <p>内 容:教師のコンサルテーション、キャリアカウンセリング、アサーションほか</p> <p>*模擬指導レポート提出</p> <p>教科書・指定図書(資料プリント)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):職業適性検査の周辺</p> <p>内 容:SPIテスト、YG検査、OHBY カード(演習)</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子、OHBY カード)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):雇用と労働に関する法制度と進路指導のまとめ</p> <p>内 容:雇用と労働に関する法制度の理解(雇用契約、就業規則ほか)</p> <p>進路指導のまとめ</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリント冊子)</p>
試験	実施しない。

〔科目名〕 中等教科教育法(商業Ⅰ) 2026年度(令和8年度)				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 教職課程	
〔担当者〕 砂 場 孝一郎 Sunaba kouitirou			〔オフィス・アワー〕 時間 : 授業実施日の授業終了後の時間 場所 : 授業実施の教室 または ロビー			〔授業の方法〕 講義、演習、実習を併用する方法	
〔科目の概要〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校の教科「商業」の教師に必要な商業教育に関する法知識について学習するとともに、商業科教師として備えるべき教科・科目の指導方法や指導技術について学習する。 ・ 春学期は、商業教育の理念、教育関連法規、教育課程の編成、教育方法などについての学習と、当該教科の指導能力の基礎を培うことを目的に、講義と演習(模擬授業)を行う。 							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 1 現行の高等学校学習指導要領は、生徒に「生きる力」を育むことを目標としている。 具体的には、①生徒は何を理解しているか、そして何ができるか ②生徒が理解していることを、どのように生かすか ③生徒はどのように社会と関わり、よりよい人生を送るか 以上のことに目標を整理できる。 2 よって、以上の目標を達成するために「高校の商業科教師」を目指す学生は、この教科教育法の科目を学ぶことで、本学で別に修得するビジネスに関する専門科目の知識・技術を、教師として授業を効果的・効率的に指導できる資質を養うことに連動する。							
〔科目の到達目標〕 1 商業教育の歴史の変遷を踏まえ、学習指導要領の内容、商業教育の現代的課題 及び今後の商業教育の方向性を理解する。 2 商業教育が、現代においてどのような役割を持ち、効用があるかを理解する。 3 高校教育の教科「商業」を理解し、適切に学習指導ができる教師としての資質を身に付ける。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでも学生の授業評価は、公正であり、客観性をもっていた。よって、担当教員に対して板書内容や文字の丁寧さ、表現の方法などにも指摘があるので、留意したい。 ・ また、学期の途中において、学生から授業への要望などを確認して、「より望ましい授業」にして、学生自身の教養の向上に努めていきたい。 							
〔教科書〕 高等学校学習指導要領解説(商業編) …… 必ず購入すること (秋学期の教育法商業Ⅱでも利用) ビジネス基礎 (実教出版・青島矢一) …… // // 新簿記 新訂版 (実教出版・安藤英義) …… // //							
〔指定図書〕 本大学の図書館は、高校教育及び高校教師採用に関連する月刊誌等が、十分に閲覧できる環境にあるため、学生には授業を通じて紹介していく。							
〔参考書〕 「商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 実教出版株式会社 ISBN 978-4-407-34457-8 2019年10月15日 初版							

〔前提科目〕 必要な教職科目を修得または履修していること	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・学修の課題 ～ ①筆記小テスト ②授業への参加状況（出席のみで、履修にはならない） ③課題レポートの提出 ④模擬授業への取り組み姿勢等を、学修の課題とする。 ・上記学修の内容を、つぎの3つの評価の観点に基づき、総合的に絶対評価 をする。 ① 知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学修に取り組む態度	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・ 2022年度から実施されている高等学校学習指導要領は、運用が定着し、高校教員採用試験に同要領の目標などが出題されているので、要領の内容を大切に指導していきたい。 ・ 授業では、青森県等の教員採用試験実施要項と出題傾向を確認し、高等学校教育特に、商業教育に対する興味・関心を喚起するように務めていきたい。 ・ 学生には、教員免許状取得のみを目的とするのではなく、教員採用試験の合格を目指して取り組んで欲しい。	
〔実務経歴〕 「該当なし」	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：商業教育(ビジネス)とは 内 容：1 商業教育の動向 2 商業科教師の資質 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料
第2回	テーマ(何を学ぶか)：学校教育について 内 容：1 学校教育制度の概要 2 憲法、教育基本法、学校教育法等の法制度 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料
第3回	テーマ(何を学ぶか)：学校教育について 内 容：1 地方公務員法 2 教育公務員特例法 3 教育職員免許法 4 その他の法令 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料
第4回	テーマ(何を学ぶか)：商業教育について 内 容：1 商業教育の変遷 2 商業教育の意義と必要性 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料
第5回	テーマ(何を学ぶか)：商業教育について 内 容：1 学習指導要領 教科「商業」の概要説明 2 学習指導要領 改訂のねらい 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料
第6回	テーマ(何を学ぶか)：高等学校学習指導要領解説 「商業編」の詳細 内 容：1 教育課程編成の視点と原則 2 具体的な教育課程の編成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料
第7回	テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明 内 容：1 基礎的科目（科目名：ビジネス基礎・簿記）の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法の説明 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 「商業編」、教科書

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 学生による模擬授業の準備</p> <p>内 容 : 1 模擬授業用の学習指導案(ビジネス基礎 ・ 簿 記)の作成 ※受講学生を選択で実施科目を決定する</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 学生による模擬授業の準備</p> <p>内 容 : 1 模擬授業用の学習指導案(ビジネス基礎 ・ 簿 記)の完成 2 模擬授業用のその他の資料の確認</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 学生による模擬授業の実施</p> <p>内 容 : 1 基礎的科目 (科目名 : ビジネス基礎) 2 模擬授業の実施 3 模擬授業の反省等の記録作成</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 学生による模擬授業の実施</p> <p>内 容 : 1 基礎的会計科目 (科目名 : 簿 記) 2 模擬授業実施 3 模擬授業の反省等の記録作成</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 学生による模擬授業の総括</p> <p>内 容 : 1 模擬授業の合評会 2 学生相互の模擬授業についての意見・感想 3 担当教師からのアドバイス 4 学習指導案の修正版の作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 教師の板書の重要性</p> <p>内 容 : 1 生徒の授業理解と板書の必要性 2 板書を見れば、授業の質がわかるとは</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 文字・活字文化の振興</p> <p>内 容 : 1 文字・活字文化振興法の制定・施行 2 文字・活字の力とは</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 春学期のまとめ</p> <p>内 容 : 1 学習指導要領の目標と商業教育の方向性の確認 2 小テストの実施</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
試 験	<p>第15回授業の中で、まとめを目的とした筆記小テストを実施する。</p>

〔科目名〕 商業実習(2026年度 令和8年度) 1月20日現在				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 教職課程	
〔担当者〕 砂場 孝一郎 Sunaba kouichirou		〔オフィス・アワー〕 時間 : 授業実施日の授業終了後の時間 場所 : 5階の非常勤講師控え室 又は ロビー			〔授業の方法〕 講義 演習		
〔科目の概要〕 この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学ぶことを希望する。授業内容は、高校生を商業に関する「将来のスペシャリスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるものである。受講する学生は、教師を目指すにあたり、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを身に付け、豊かな人間性の涵養に配慮した教育を行うため、新たに求められる商業に関する教育内容や方法を理解しなければならない。 文部科学省は、次期高等学校学習指導要領を更新する「論点整理」を公表している。その概要は、目標内容の構造化・見やすく・使いやすくを基本とするとしている。特に情報教育の取り扱いは重要であり、商業教育の在り方も大きく変化するものと予想される。これまでの商業教育のねらいであった①資質・能力を確実に育成する ②確かな学力を育成する ③豊かな心や健やかな体を育成する の3点是不変のもの思う。このことに取り組む将来の教師を育成しなければならない。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、多様化してきている。 このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。							
〔科目の到達目標〕 当該科目は、教職課程の選択科目である。 商業科教師を目指す受講生には、次のことが求められるので、この科目の目標とする。 ① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的合理的に行うための指導力を育成することが求められる。以上のことが中間的な目標である。 ② 次に商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、さらには、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成し、人としての資質を育成することが求められる。そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。 以上の資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本となるので、これまで指摘をいただいた授業評価内容(板書の仕方等)を真摯に受け止め、授業改善に生かしていきたい。							

〔教科書〕 購入は不要である。必要に応じて、商業、経済に関する資料、新学習指導要領等の資料を配賦する。	
〔指定図書〕 「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編 実教出版	
〔参考書〕 なし	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学修の課題は、高校教師(指導者)としての資質を身に付けることである。 評価の方法は、(1)課題のレポート提出(1回) (2)筆記小テスト(授業内で2回) (3)プレゼンテーションの実施 (4)授業の履修・態度を通して、学習意欲の有無、 及び 目標への到達度を判断し、絶対評価(100点法)で行う。 ※それを本学の評定基準に従い、総合的な5段階評定を行う。 ※因みに、授業に出席さえすれば単位認定される、とは限らない。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業の担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、高校学習指導要領の商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。 因みに、教員採用試験は、筆記用具による記述形式の部分も相当にある。 なお、学生が授業を欠席する際の担当教員への連絡は、原則として不要とする。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション 内 容：講義の目的と内容、進め方、評価の方法 及び 課題提出の方法 について 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)：営業活動の自由と制限 内 容：商法上の営業自由と制限 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)：独占禁止法 内 容：独占禁止法が規制する行為 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容：売買契約の締結、はんこ(印鑑)の実務 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)：下請代金支払遅延等防止法 内 容：親事業者・下請事業者の定義 親事業者の義務 教科書・指定図書

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 物の売買について</p> <p>内 容 : 売買とは 不動産の売買 動産の売買 債権の売買</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引上の不法行為</p> <p>内 容 : 一般的な不法行為 特殊な不法行為</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 日本と外国の会社役職名</p> <p>内 容 : その違いと最近の現状</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 日本の証券取引所</p> <p>内 容 : 証券取引所の機能と役割 ・ 存在意義</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか) : ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容 : 利息の計算・日数計算</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか) : コーポレートガバナンス (CG)</p> <p>内 容 : CG が注目される背景 CG は何のために必要か</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容 : 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時 事的なことを主なテーマとする)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容 : 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容 : 基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話対応)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容 : 人間関係 (ヒューマン ・ リレーション)の重要性</p> <p>教科書・指定図書</p> <p style="text-align: right;">筆記小テスト (1回目)</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 企業の形態と経営組織(1)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 企業の形態と経営組織 (2)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>教科書・指定図書</p>

第20回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 企業活動と税(法人税・消費税・印紙税・関税等)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎</p> <p>内 容 : 雇 用(働き方改革・労働関連法令)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 経済社会と法</p> <p>内 容 : 経済関連法の意義と役割</p> <p>教科書・指定図書</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権</p> <p>内 容 : 権利と義務、物権と債権</p> <p>教科書・指定図書</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権</p> <p>内 容 : 知的財産権</p> <p>教科書・指定図書</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法</p> <p>内 容 : 契約と意思表示、売買契約と賃貸契約</p> <p>教科書・指定図書</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法</p> <p>内 容 : 債権の管理と回収、金融取引</p> <p>教科書・指定図書</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法</p> <p>内 容 : 法令遵守、紛争の予防と解決</p> <p>教科書・指定図書</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法</p> <p>内 容 : 消費者保護</p> <p>教科書・指定図書</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業教育の現状と課題</p> <p>内 容 : 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 次期高校学習指導要領の概要と論点整理と商業教育の方向性について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業科教員になるには</p> <p>内 容 : 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方改革の現状 筆記小テスト(2回目)</p>
試 験	<p>授業の中で、筆記小テストを2回 実施する。</p> <p>(1回目は第15回の授業の中で・2回目は第30回の授業の中で実施)。</p>

〔科目名〕 中等教科教育法（公民Ⅰ）				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 教職課程 （必修科目）	
〔担当者〕 長谷川 光治			〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：			〔授業の方法〕 講義・演習	
〔科目の概要〕 高等学校「公民」の、目的と目標、教育課程における位置づけと役割、教科の構造・特質・理念、各科目の目標と内容構成について理解を深め、指導計画の作成、教材研究方法、指導案作成、模擬授業を、体験的、課題解決的に学び、教育現場における「公民」の実践的な教科指導力を養う。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕 教養科目 1群～3群の各科目が、「公民」の教材研究、発掘・作成に関連する。 〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 高等学校「公民」の教科指導に必要となる、授業の組み立てや学習指導案作成の実践力につなげるための、視点・知識の基盤となる							
〔科目の到達目標〕 （1）公民教育の意義と、公民科の目標・学習内容を理解する。 （2）教材研究の重要性を理解し、教材の発掘・作成を実践する。 （3）学習指導案を作成し、模擬授業を行う。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
〔教科書〕							
〔指定図書〕							
〔参考書〕 高等学校学習指導要領解説 公民編 平成30年7月 文部科学省 （東京書籍 1100円） 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成30年7月 文部科学省 （東洋館出版社 693円）							
〔前提科目〕 「教育原理」「教育課程論」「教育心理学」「教育方法論」							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 学習指導案の作成・模擬授業の実施・「模擬授業分析・考察シート」・「模擬授業自己評価シート」・視聴覚教材の作成と発表、これらの相互評価と自己評価、課題に対する取り組み状況を総合的に評価。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 高等学校「公民」の授業を教壇で実践していくことを意識し、授業に取り組むことを望みます。							
〔実務経歴〕							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : オリエンテーション</p> <p>内 容 : 学習目標と内容の確認、学習の進め方、「公民」教育について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成の教材</p>
第 2 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 「公民」教育の意義と学習指導要領 ①</p> <p>内 容 : 公民教育の意義と変遷</p> <p>教科書・指定図書 教員作成の教材</p>
第 3 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 「公民」教育の意義と学習指導要領 ②</p> <p>内 容 : 学習指導要領の各改訂の趣旨と、社会科・公民科との関連</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第 4 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 公民科の目標と教科構造</p> <p>内 容 : 公民科の目標と、育成の三観点から見た各科目目標との関連</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第 5 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 公民各科目の学習内容 ①</p> <p>内 容 : 「公共」の科目目標、内容とその取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第 6 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 公民各科目の学習内容 ②</p> <p>内 容 : 「倫理」の科目目標、内容とその取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第 7 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 公民各科目の学習内容 ③</p> <p>内 容 : 「政治・経済」の科目目標、内容とその取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第 8 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 高等学校教育課程と公民科</p> <p>内 容 : 教育課程の編成と年間指導計画の作成</p> <p>教科書・指定図書 「高等学校学習指導要領解説 総則編」教員作成の教材</p>
第 9 回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 学習評価</p> <p>内 容 : 学習評価の意義と目的、観点別学習評価</p> <p>教科書・高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 指導計画と学習評価</p> <p>内 容 : 指導計画の作成と指導上の配慮事項</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>

第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 教材研究のあり方 内 容 : 科学研究と教材研究のあり方・研修のあり方</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 学習指導案の作成 内 容 : 学習指導案の考え方、事例と作成</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 授業研究 ① 内 容 : 題材の発掘と教科書の活用、情報機材の活用、模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校指導要領解説 教員作成の教材</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 授業研究 ② 内 容 : 情報機材の活用、板書、学習題材の発掘、模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説教員作成の教材</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 授業研究 ③ 内 容 : 題材の発掘と教科書の活用、情報機材の活用、模擬授業</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成の教材</p>
試 験	課題レポート

〔科目名〕 教育実習事前事後指導				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 教職科目(必修)	
〔担当者〕 鈴木 郁生・内海 隆・西村吉弘 Suzuki Ikuo・Uchiumi Takashi・ Nishimura Yoshihiro			〔オフィス・アワー〕 時間:授業時に提示する。 場所:同 上			〔授業の方法〕 講義・演習	
〔科目の概要〕 春学期に開講する教育実習事前指導は、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案(授業案)の作成および板書指導も含めた模擬授業を通して実践的な指導を行う。 教育実習後の事後指導では、学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて実習報告の形式で総括し、「教職実践演習」につなげる。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 事前指導で模擬授業や教師としての心構え等を学び、実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性等も考えることにつながる。							
〔科目の到達目標〕 教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および教科・科目を中心とした学習指導などの基礎・基本を確実におさえる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば応える。							
〔教科書〕 本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を随時配布する。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 商業・公民に関わる教科書。 その他必要に応じて提示する。 <商業関係の教科書> ※公民教科書(図書館に配架済み)の詳細は省略する。 『ビジネス基礎』商業 701 実教出版、 『ビジネス・コミュニケーション』商業 704 実教出版 『マーケティング』商業 718 実教出版 『商品開発と流通』商業 732 実教出版 『観光ビジネス』商業 738 実教出版 『ビジネス・マネジメント』商業 706 実教出版 『グローバル経済』商業 734 実教出版 『ビジネス法規』商業 740 実教出版 『新簿記』商業 709 実教出版							

『高校簿記』商業 708 実教出版 『新財務会計I』商業 728 実教出版 『高校財務会計I』商業 727 実教出版 『原価計算』商業 720 実教出版 『財務会計 II』商業 742 実教出版 『管理会計』商業 746 実教出版 『情報処理 Prologue of Computer』商業 716 実教出版 『最新情報処理 Advanced Computing』商業 715 実教出版 『ソフトウェア活用』商業 736 実教出版 『最新プログラミング オブジェクト指向プログラミング』商業 724 実教出版 『プログラミング マクロ言語』商業 725 実教出版 <公民関係の資料(集)> 『ズームアップ公共資料』実教出版 978-4-407-36312-8 『ズームアップ政治・経済資料』実教出版 978-4-407-36313-5 『最新公共資料集』第一学習社 978-4-8040-5412-4 C7030 『クローズアップ公共』第一学習社 978-4-8040-5413-1 C7030 『テオリア 最新倫理資料集』第一学習社 978-4-8040-5425-4 C7012 『最新政治・経済資料集』第一学習社 978-4-8040-5427-8 C7030 『テーマ別資料 公共』とうほう 978-4-8090-6576-7 『フォーラム公共』とうほう 978-4-8090-6577-4 『アプローチ倫理資料 PLUS』とうほう 978-4-8090-6578-1	
〔前提科目〕 3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法(商業Ⅰ・Ⅱ)」、「中等教科教育法(公民Ⅰ・Ⅱ)」、「商業実習」	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 事前指導(模擬授業等、レポート)及び事後指導(実習報告発表、所定様式のレポート)、教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。 なお、実際の評価にあたっては、3人の専任教員による。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に出向いて行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分にしておくことが大切である。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):事前指導① 内 容:教育実習の目的と意義、教育実習の留意点 教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』)

第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導②</p> <p>内 容:授業参観の方法と教材研究 『教育実習日誌』について</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』ほか)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導③</p> <p>内 容:学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導④</p> <p>内 容:学習指導案作成と模擬授業(1)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』)ほか)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導⑤</p> <p>内 容: 学習指導案作成と模擬授業(2)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』)ほか)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導①</p> <p>内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導②</p> <p>内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
試験	実施しない。

〔科目名〕 教育実習				〔単位数〕 2単位		〔科目区分〕 教職科目(必修)	
〔担当者〕 鈴木 郁生・内海 隆・西村吉弘 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkakashi・ Nishimura Yoshihiro			〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に明示する 場所:同上			〔授業の方法〕 実習	
〔科目の概要〕 実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関するもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教職への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。							
〔科目の到達目標〕 教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限り少なくするように配慮する。							
〔教科書〕 なし。							
〔指定図書〕 なし。							
〔参考書〕 各自が教育実習校の指示を受けて十集に必要な参考書、資料等を準備すること。							
〔前提科目〕 「教育実習事前事後指導」							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の3名の専任教員による。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教育実習の事前指導で教育実習全般の理解を深めたことをふまえ実習に臨むことを期待している。また、実習期間中は実習校と連絡をとり、必要に応じた巡回指導を含めて教育実習生の実習の成果が上がるように努める。なお、実習校での期日等の変更には、事情に応じて実習校と綿密な連絡をとり臨機応変に対応する。							

【実務経歴】	
該当なし。	
授業スケジュール	
実習期間 (2～3週間)	教育実習校(高等学校)において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で「ホームルーム指導」、「授業観察」や「授業及び研究授業」等を行う。
試験	実施しない。